

「自我とエス」(1923年)

ゲオルク・グロデック「人間はエスによって生きられている」
フロイト「生きられる」自我の受動的な姿(pp.406-407.)

“無意識”の分類

A. “前意識的”なもの

B. 潜在的ではあるが、意識されうるもの

“無意識的”なもの = “無意識”的なものの典型

抑圧されたもの、それ自体としては、簡単には意識されえないもの
何らかの妨げ

自我と無意識との関係 不可分

“自我”

心のさまざまなできごとを一つにまとめ上げる編成体
意識のおおもと
自我にかかわるすべてのできごとをコントロール
抑圧も自我から出てくる

自我とエスとの関係 明確に区分できない

前意識的なもの...自我

自我と地続きで、無意識的にふるまうもの...エス

自我はエスの一部

自我はエスの表面にあって、下方でエスと合流する

エスとの関係で自我を捉えなおすと.....

自我...エスのなかにある快原理を現実原理に置き換える
理性や分別などの代理

乗馬の比喻

自分の意志であるかのように、エスの意志を行動に移す自我

高い価値を持つものとして位置づけられている心のはたらき（自己批判、良心 etc）
無意識的なもの

自我理想 超自我

自我とエスの関係の深化 エディプスコンプレクスによる自我変容

男の子の場合

母親への欲望 父親を排除しようとする欲望 母親への欲望の断念 父との同一化
自我変容

“自我理想” “超自我” ...それ以外の自我の内容と対立

自我理想...エディプスコンプレクスの後継者

自我と超自我との関係

超自我...多くのことを父親が独占する特権として留保

父としての性格を保持

そのようにあるべし = 父のようにあるべし

そのようにあるべからず = 父のすることを何でもしてよいわけではない

超自我の強さ = エディプスコンプレクスの抑圧の強さに比例

権威、宗教、教育、読書 etc の感化

超自我...自我を支配

いっそう厳格な良心

無意識的な罪責感

“高尚な” もの = 自我理想 超自我

自我

自我理想を打ち立てることでエディプスコンプレクスを制圧

自我をエスに従わせる